新宮山彦ぐるーぷ第２２９４回

熊野修験春峰の行仙宿泊サポートと持経宿での接待

◇実施日　５月２５日（土）、２６日（日）　晴後曇
◇参加者　行仙宿　梶野照雄、阪口雄二　２名
　　熊野修験サポーター　１２名

５月２５日　行仙宿

午前９時半少し前に登山口到着。サポーターの人が集合していた。荷物が結構あり、モノレールの荷台に積みあぐねていたので、一旦降ろして積み直した。全部積込んで登り出す。人数が多いので荷揚げした荷物は一回で小屋に運ぶことができた。

登山口で

逆峰の行者さん

昼食

行者堂の戸を外し幟を立て、管理棟を開けたり発電機を動かしたり、大方の準備を終え１２時から昼食を摂る。１１時半頃に一人の行者さんがやってきた。行者堂で勤行されている。登山者も４～５人通過した。殆どが日帰りのようだ。食後男性の数名にお願いしてマキ割りをして頂いた。マキ割りの経験に乏しいようで、皆苦労されている。マキ割りを終え、熊野修験一行の到着までまだ時間がある。阪口君が継の窟へ行きたいというので、他の２名と４名で継の窟へ向かった。

継の窟で勤行

小山さんから弁当を

小屋迄運ぶ

ロープの付いた谷は足元が柔らかく、石も落ちやすいので少々苦労していたようだが下りきってしまうと後はスムーズに進んだ。継の窟で勤行して行仙宿に戻った。男性だけなので早い時間で往復で来た。熊野修験一行が午後２時半に地蔵岳を通過したと連絡があり、行仙宿到着は午後５時半頃かと思われた。田代君や坂口君が出迎えに向かった。午後４時過ぎに小山さんが夕食、朝食の弁当を登山口まで運んでくるので、３時半に下山する。登山口で小山さんを待っ

ていると、階段を山仕事の服装の人が降りてきた。呼び止めて話をすると、線下伐採の下見に来ているという。時期は秋以降になるようだが、モノレールを使わせてもらえないだろうかと言うことだったので、電源開発を通して依頼してほしいと返事しておいた。午後４時１０分に小山さんが到着し、段ボール箱５個に入った弁当を受け取る。モノレール終点で森さん等が待っていてくれて、何も運ぶことなく行仙宿に戻った。

熊野修験一行が到着

勤行の後法要

夕食

法螺貝の音が近くなり、午後５時２２分に一行が到着した。お堂で勤行し、続いて故中前行者の供養が行われた。ザックをおいて閼伽行としてモノレール終点に置いた２リッターのペットボトルを取りに行く。薄暗くなりつつあるが水場へ降りるのと比べると、少々暗くなっても大丈夫だ。阪口君らはモノレール終点まで同行し下山した。皆さんに着替えて頂き午後６時半から夕食を始める。

夕食

熱心に聞いて頂いた

管理棟で夕食

食後、花井行者から行仙宿小屋に着いて話をして欲しいと求められ、聞きかじりではあるが、建設時の様子をお話した。サポーターの皆さんと管理棟に移動して遅い夕食を摂る。午後８時に発電機を止めるつもりだったが、８時半に小屋を見に行くとすでに消灯されていて真っ暗だった。８時４０分に発電機を止め下山して車で眠った。

５月２６日　行仙宿、太尾登山口

少し明るくなった午前４時半に目が覚めた。昨夜１０時前に寝付いてから朝まで目が覚める事がなく快適だった。顔を洗い歯磨きしてから登り出す。川島慰霊碑の先、傾斜が急になる所でエンジンの音がおかしくなり始め１０ｍ程進んでエンストしてしまった。セルを回すとエンジンは始動するが、登るとすぐにエンストする。どうしようもないので下り始めるが、やっぱりエンスト。惰性で昔の車庫跡へ降ろしパーキングブレーキを引いて停車し、歩いて登る。

エンストでここに停めた

小屋で朝食

太尾登山口に着く

行仙宿小屋に着いて、皆にモノレールエンジン不調を伝えたが、荷揚げで助けてもらったので、下りは持って降りましょう、と言ってくれたのでちょっと安心した。熊野修験一行は午前４時半に出発したそうだ。用意していただいた朝食をご馳走になり、全員で後片付けと持ち降ろす荷物を整理する。空になった弁当のパックや空き缶などを背負子につけてモノレールまで運ぶ。エンジンはすぐに始動したが、１０ｍ程登るとエンスト。下りも同様で動く気配はない。諦めて歩いて登り出すと田代君らが両手にビニール袋を下げて降りてきた。「もう何も残ってません」と言うので、発電機は停めた？と聞いてみた。「あ、確認してません」との答えがあったので急いで行仙宿に向かった。モノレール終点を過ぎたところで田代君が再び登ってきて、一緒に行仙宿に着く。行仙宿手前から聞こえていた発電機のエンジン音が行仙宿に着いた途端聞こえなくなった。倉庫と発電機室が開いたままになっていた。発電機は燃料切れで停止していた。扉を閉め小屋、管理棟の戸締りを確認して下山した。旧モノレール車庫に止めたモノレールに降ろした荷物を積み惰性で林道まで降りた。惰性で降りるのも慣れてきて、それほど難しい操作ではないがお勧めできる事ではない。

サポート隊出発

千丈平で

登山口を後にして太尾登山口に向かう。玉置神社へ向かう村道が工事通行止めになっており、折立、平谷から行くことができず、Ｒ４２５が迂回路として指定されている。そのため通行量が普段の３倍以上あり、離合に時間がかかることがあった。十津川村の道の駅も満車で、役場の駐車場に停めてトイレに行った。旭口から太尾登山口までの間に降りてくる車が６台あった。６台降りてくるのだから２～３台の空きがあるだろうと思って登山口に着くと絶好の場所に２台の空きがあった。車を停めて暫くすると田代君が到着し、その後後続の３台も到着、阪口君に弁当を渡して出発準備をする。田代君は天狗山か奥守岳位まで迎えに行くといったが、とてもそんな

元気はない。千丈平で待っていると宣言して登り始めた。阪口君は深仙宿か太古の辻までと言って、どんどん先へ進んでいった。千丈平までは２３日に倒木を処理するために来ているので様子はよく判っている。古田の森を過ぎたところの笹を切った場所では新しい芽が伸びていた。千丈平に着き、頂いたバナナやアンパンを食べる。かくし水の様子を見に行くと、パイプが差し替えられたようで、パイプから出ている水よりもパイプの周りから流れ出している水量が多いようだ。深仙宿に向かう登山道に飛び出したバイケイソウを切り取って道がはっきり判るようにした。熊野修験一行の到着は午後５時ごろだろうと思っていたが、予想時刻の午後４時５８分霧の中に先頭の姿が見えた。全員が揃うまで立ち止まって休憩している。

太尾登山口に帰着

細かい雨が降り出しているので、先行して古田の森に向かう。古田の森で、休憩するかを訪ねたら、太古の辻と深仙宿で充分休んだので、との答えがあり、この調子で降りるとまだ十分明るいうちに下山できそうだったので休憩せず多少速足で歩いた。１４３４ｍのピークやハシゴを付けた岩場も捲き道で通過し、足への負担軽減と時間の短縮を図った。２０㎞を超える行程を歩いてこられて、大変お疲れだったと思うが、早いスピードについてきていただいたおかげで、午後６時２０分、まだ明るい時間に下山することができた。皆さんお疲れ様でした。

（記；梶野）

行動タイム

５月２５日

09：30 補給路登山口→10：45 行仙宿→14：16 継の窟→15：03 行仙宿→15：40 補給路登山口→16：55 行仙宿 20：40→21：28 補給路登山口

５月２６日

補給路登山口 05：35→06：20 行仙宿→09：30 補給路登山口→12：19 太尾登山口→15：09 千丈平 17：05→18：20 太尾登山口

持経宿で接待

◇実施日　５月２６日（日）　晴

◇参加者　沖崎吉信、湯川一郎、西克、大江加予子・徳子　５名

事前荷揚げ、行仙宿泊のサポート、そして持経宿での接待の三点セットで対応させて頂いている。昨年の行仙宿泊は例年通り生熊、中前が登って対応していたが、今年は梶野君一人で頑張ってもらった。今回の奥駈行参加者は２２名で、内女性が６名。新客が約半数とお

聞きしていたので、前日には飲み物や果物、お菓子などを準備した。今年は国道１６９号の通行止めがあって、下山が前鬼ではなく太尾登山口に変更された。そのため歩行時間が一時間ほど多くなることと、深仙宿～千丈平の熟知者がいなかったことが不安材料だ。また昨年のように体調不良者が出た場合の対応も心配の種だ。コーディネート役の角君も気をもんだことだろう。

お堂も準備完了

中又尾根付近で

平治宿に着く

太尾登山口に下山するということで、今回は熊野修験サポートが持経宿に来ることが無くなり、途中リタイヤーされた方は我々がお送りすることになった。当初は７名で向かい接待する予定だったが、乗車スペースの確保と、池郷林道走行の不安があり、畑林兄弟が辞退してくれた。当日朝５時半に新宮を出発、北山村に入った頃に森君から電話で「全員元気で、午前４時３０分に出発した」と伝えられた。例年より３０分早いスタートだが、距離を考えると正解だろう。午前６時半過ぎにスポーツ公園に着いたが、西さんには７時集合と伝えていたので３人には先行してもらい沖崎一人で西さんの到着を待った。５～６分待つと西さんが到着し持経宿に向かった。池郷林道では一度も車を降りて落石を除ける事がなく、５０分で持経宿に到着した。湯川君と西さんに平治宿に行ってもらい志納金の回収などをお願いした。沖崎はいつもの所へ椹を採りに行く。その間に大江さんが接待の品を並べたりお堂の準備を手早く済ませて一行の到着を待つだけとなった。午前４時半に行仙宿を出ているので午前８時半に持経宿に到着する予定だろう。

接待の様子

出発

８時半頃に法螺貝の音が聞こえた。千年桧で勤行しているのだろう。１０分ほど経って８時５０分、鈴木さん先頭で全員元気に持経宿に到着され、お堂で勤行の後、花井君から何か一言、とご使命があり、日ごろの活動状況と本日の無事満行を念じている旨の挨拶をさせて頂いた。熊野修験参加者の皆さんも少しづつ入れ替わっており、今回は若い人が多い。大半の人が存じ上げていない顔だが、先日お

会いした本宮の須江君、新宮市の須崎由香さんのお二人から、山彦の活動に参加すると有難い申し出があった。リタイヤする人も無く２０分ほどの滞在の後持経宿を出発された。夜遅く、森君、阪口君から「全員元気で無事下山した」と電話で報告があった。

（記：沖崎）